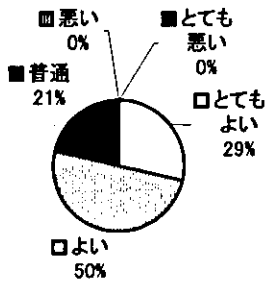
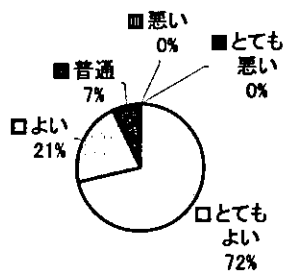


参加者の数について



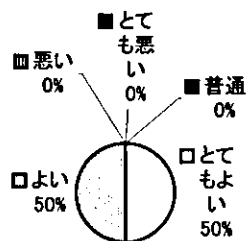
- ・ 適正だと思います。
- ・ 今回はうまく行ったので、これでよいと思うが、少人数（10人前後）でもよいと思うので検討してみたい。
- ・ 2グループに分けられたりしていたので、丁度いいくらいの人数だなと感じました。
- ・ 参加者の数は今回はやり易かった。異なったスケールでの想定も必要だと感じた。

グラドルールについて



- ・ 問題ないと思います、ただ次回は張る場所はトビラにしませう。壁にはついても見ようとしない限り目に入りません。
- ・ グラドルール自体、完成されつつあって良いのでは？
- ・ 問題ない。最初に取り決めたのは「安全な場所」確保のため今後も続けて欲しい。
- ・ 最低限、当たり前のことは書かれていたので安心して参加できました。

進行の仕方について



- ・ フレキシブルに対応されていたと思いますが、1日前のTime keepがちょっとゆるかったかなーと思います。
- ・ 進行は非常にスムーズに行ったのではないかな。ただホワイトボードがあるので確認の意味で口頭だけでは無く、0:00~0:00と書いた方が親切では。今後聴覚障害の方も参加する可能性もあるので。
- ・ ワークが一つ抜けてしまいましたが、ファシリテーターが慣れることで、解消できると思います。ただ、各コマのクロージングをする難しさを感じました。ファシリテーターへの指示・アドバイスがモジュールに盛り込まれると良いと思います。
- ・ ファシリテーターの打ち合わせも決してダラダラとした印象は与えなかったと思う。
- ・ メイン、サブのお2人共、ファシリテーターさんがすばらしかったので、素直に入りこみやすい雰囲気、状況を作ってもらえたと思います。今回の研修本編では、自分の中でこのファシリテーターの方々のやり方は1、2、を争うほどいい収穫になり勉強させて頂きました。
- ・ スタッフの皆さんは相当な時間と調整をされ、進行についてもだいぶご苦勞をされたと思います。お疲れ様でした。

- ・ファシリテーターの役割分担の簡単な表が必要。／グループ分けから問題が生じた場合グループ担当のサブ一人に問題が集中しないように決まりを作っておく。全員で対処するようにするとか。
- ・運用面では、参加者のモチベーションが持続できるような工夫が一層必要。”あきさせないで、楽しみながら得るものが大きい”が理想。
- ・これだけの限られた時間と空間の中でこのような体験をさせて頂けたファシリテーターの御三方には改めてお礼が言いたいです。本当に有難うございました。そして、お疲れ様でした。

その抱負が付いた書

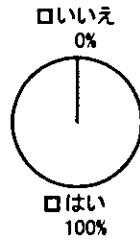
- ・ファシリテーターの事前の打ち合わせがたりないような気がしました。「臨機応変」よりも「ドタバタ」に見えました。time keeping が甘い部分があったので、その対応がprogram に含まれていなかったのでしょうか。Flexible に対応することが可能なprogram に研修をくみ立てる必要があると思います。企業向け研修の骨組みをとり入れて、楽にかつ効果的に効果的なprogram を作りませう。
HIV陽性者団体が経済的に自立するために、スピーカー派遣は非常に重要な事業の1つです。
- ・途中参加なので、研修プログラムの全体像を把握することはできなかったが、ブラッシュアップが近くで実践的なものにシリーズ化できそうな気がしました。
プログラム、ファシリテータの方々へ若干の負担があるかもしれませんが、とても意義がある〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇しております。
- ・参加者に関しては、今後の課題として女性の参加や他団体への働きかけが課題。
- ・アンケートを書くのもたいへん。(未消化)書ききれない部分が多く残った。
- ・良かった。何の役にも立たなくてごめんなさい。
- ・進行について、プログラムについてその他全体にはほとんど問題はないと思います。ただこれは参加者が絞り込まれていたため、一般から募集した参加者を対象として実施する際の問題点をシミュレーションする必要があると思います。みなさん、お疲れ様でした。ありがとう。
- ・よく考えられた内容でありなにも言う事はありません。多分、自分にとってとてもリラックスした時間であり、違和感を感じないのは研修それ自体の完成度が高かった為だと思います。
- ・100点満点としたら75点ぐらいとは思いますが、今後、十分に改善が行えるであろうと期待できる内容でした。
- ・僕の活動では、どちらかというときめの細かいところまでは手が届いていないようにも感じました。皆さんを見習ってやっていきたいと思います。とにかくスタッフの皆さん、ありがとう！ ご苦勞様！また会いましょう！

4) この研修が、今後のあなたのスピーカー活動にどのように役立つと思うか。

- ・自分の適性、かけているスキル、すでにあるスキルが明確になった。スピーカー研修に参加している人は全員スピーカーになりたいものだと思っていたが、最後のふり返りでそうでもないことがわかり、あらためて「多様性」を感じた。ぎゃくに向いていない人に「自分はむいていない」ということをわからせるいい機会なのかもしれない。参加者にとって、スピーカーとしてのスキル向上のみならず、適正の有無をチェックする機能をもっていることがわかったのは発見だった。私もスピーカーとして経験をつみ、スキルをupさせたいのでadvanced versionを作ってください。
- ・スピーチや文章の気がつかなくせなり、スキル上の未熟がはつきりする○○○○○○○○
○発見の連続でたのしかったです。個々のスキルや資質の高い人たちから学びとれた○○○○○○○自分の未熟を○○○○○○○こともできた。
- ・スピーカーとなるスキルを学ぶ事により、逆に依頼元に対し、要望事項の確認が出来た。スピーカーとして、相手に何を伝え、何を理解してもらうかなど細かい下準備の必要性を感じた。
研修に参加する事により、自分のコミュニケーション能力不足を再確認することが出来た。伝える事の難しさを知ることは、今後のスキルアップへの意欲につながると思う。
- ・あまい評価では、はじめてだから、しかたない。だけど、十分に役立てられたとは思えない。自分の能力不足が確認できただけでも納得するしかないかもしれない。
- ・一人でやるのではなく、みんなでやれるので、自信になる。自分ができなくても適正のある人にふれる。そのための役に立ちたいと思う。全体のスーパーバイザーが必要であると思う。一人だけでなく、何人かを確保するようにお願いしたい。営業活動は賛成です。
- ・慣れるのではなく、常に自分を振り返る必要性、重要性を再認識しました。「これで良い」ではなく、「よりよく」を目指す気持ちが大切。自分が話すべき場所、対象、内容をもっと明確に認識できるようになったと思います。
実際への導入のためにスーパーバイズ、プロモーション事務処理等の体制を考える上で、大いに参考になりました。また、そのような役割りをしたいという希望が具体的に参加者から表明されたのが嬉しかった。
- ・要点の整理の仕方、何を1番伝えたいかのクローズアップ、対象者が何を求めているのか。
目的を達成するための手段／等々を学んだと思います。次回にスピーカーで呼ばれたら必ず利用しようと思います。
- ・今までは単純に自分の体験が売り物と思っていたが、今回の研修で、それから更に依頼元が自分の体験のどこに焦点を合わせているか確認する事の必要性を強く感じた。
スピーカーとして話す事、伝える事の意義（相手に対しても自分に対しても）を自分自身がスピーカーとして立つ時にもっと明確にしていけるようになりたいと思った。そうした事を感じさせ、又、考えさせられた今回の研修はとても重要な体験でした。
- ・まず、研修本編自体は、これからの自分達の団体を運営していく中でのヒントや勉強になることがたくさんあり、また自分自身のスピーカー（私の場合、今のところ陽性者の前で話すことを前提）としてのスキルアップにつながったと思います。それよりも、研修外のこと、とてもプラスになる出来事が多く、他団体との連携させて頂くためのごあいさつ、また諸先輩方のご意見、アドバイスを伺えることも多く、本当に有意義な3日間になりました。いろいろとご相談にのってもらったファシリテーターのお2人に感謝です！！今日の経験を活かして、地元に戻り、その経験か情報、知識を自分達の団体に活かしていきたいと思っています。
- ・スピーカーのスキルは案外知らなかったりしても、頼まれれば何とかやったりすることもあると思います。
本来は、このプログラムを100%できたら、プロのスピーカーになれるかもしれませんが、100%は無理なので、少しずつ取り入れたり、頼まれた時にこのスキルを思い出しながらできればいいかなと思います。
たとえ（いい！？ スピーカー）ができなかったとしても、振り返る時にどの部分ができてなかったと気づくことになると思います。

- 他の人のスピーチを聞く絶好な機会でもあり、モチベーションになった。一步引いて聞く訓練になった。

5) スピーカー研修の改善のための内部ミーティング資料や、外部に向けた報告資料に、無記名で自由記述を引用しても良いか？



厚生労働科学研究費補助金

エイズ対策研究事業

個別施策層に対する固有の対策に関する研究

平成 16 年度 総括研究報告書

発行日 平成 17 (2005) 年 3 月

主任研究者 樽井正義

〒108-8345

東京都港区三田 2-15-45 慶應義塾大学文学部樽井研究室

Tel.&Fax.: 03-5427-1131 E-mail: tarui@flet.keio.ac.jp